



春季俳句会（令和三年三月）「特選句」句評（兼題：早春、浅春、花、子季語含む）

特選句 句評

一、特選句を選ばれた方から、その句の魅力を語っていただきました。

○子が丑に替はる明日や初詣

戸堂博之

◆自分の考えたことを素直に表現している。私の知識がまだ浅いので難しい句より解り易い句が好きです。

楠野圭子

○浅春や「花」を奏でる古ピアノ

吉澤志保子

◆なんとなく楽しい気持ちの句はいいと特選にしました。

富岡訓子

◆早春の情景が目に浮かび、「花」を奏でる美しいピアノの音色が懐かしく聴こえる様でした。

岩崎悦子

○稲妻に似たる水菜を喰らうかな

吉澤志保子

◆水菜のサラダでしょうか。口中に感触がよみがえるようです。稲妻のとえが秀逸、それがすべてです。

山家由紀

○語りかく備前に一輪山椿

前田秀一

◆赤褐色の土を釉薬をかけずに高温で焼いた備前の花瓶は椿を活けるのに最もふさわしい。一重の山椿と語り合っているのだろう。

佐藤多恵子

○三寒にコロナ禍耐えて四温かな

都 福仁

◆日本中が、コロナに振り回されて、一喜一憂している様子が、よくわかります。

吉澤志保子

○冬銀河明るく認む目の術後

西村敏治

◆多分白内障でしょう。良く見えるようになった感激その気持ち理解できます。

中野陽典

○藻に触れて素足こそばゆ春の川

本多通博

◆どじょうでも捕まえて、脚を滑らせた腕白少年時代を、甦らせませす！

戸堂博之

◆五〇年前の少年の日の追憶の句と思います。あの頃は食糧事情が悪かったけれど、何もかもが光り輝いていました。

中野亘子

○鶯や声もたてずに庭の隅

中野陽典

◆早春の庭に、まだ鳴くには早過ぎてただぼつんという鶯の姿が、何とも可愛らしく目に浮かびます。

野本展子

○冴え返る空満月の凜として

富岡訓子

◆寒い日の満月は、名刀の光のように静かであるが、あたりの空気を引きしめるほどの力がある。寒さの表現が上手です。

佐藤茂弘

○雨上り土よりかすかかおる春

富岡訓子

◆土の温度が下がる雨上がり春に土の匂いがあるか疑問ですが、自然な感性に感心しました。「土起こし匂ひの新たな花の園」と迷いました。

都 福仁

○立春や歩き始めのフェルト靴

佐藤多恵子

◆力作揃いで苦しい選句でした。が、「フェルト靴」に、愛くるしい情景がまぶたに浮かび、最後まで 第一席でした！

網 佑子

○よちよちと児は影を踏み浅き春

佐藤多恵子

◆歩き始めの児が、浅春の朝日を背に自分の影を踏みしめるように歩く。愛らしい姿の絵を見ているようです。

吉田以登

○夫を送る心友二人冴え返る

山家由紀

◆そのお「心」、私にはあの二人隣り合わせの卒業写真での澁刺さとして共感しています。

岩壺克哉

○ミャンマーの政変憎む春の宵

山家由紀

◆ミャンマー出身の有能な好青年を知っている故に、今の政変は実に嘆かわしいです。

西村敏治

○春の陽に手をかざして笑む癒えし人

中野亘子

◆コロナ下クラスター防止で厳しい面会制限の入院生活、春が巡ってやっと退院できる嬉しさがにじみ出ている。

三木徳彦

○葉のしづく軒端のしづく春の雨

中野亘子

◆「葉のしづく軒端のしづく」という表現の中に日々の温かさへ期待感を読み取った点が素晴らし。

前田秀一

二、編集者講評 特選句逃がした方の句の中から注目の句を取り上げました。

①二点句

ぼちぼちと母とゆく道春近し

野本展子

母と散歩する道も漸く春の到来が感ぜられる。「ぼちぼち」との表現に何とも長閑さや、このような幸せを長く続けたいとの気持ちも伝わっている。

すべきこと日々満ち余る老いの春

網 佑子

作者は、するべきことが充ち余ることが沢山あって(恐らく若い時からそうに違いない!)素晴らしい人生なんだろうと想像がつかます。

②一点句

茶がうまい笑顔の妻と春迎ふ

佐藤茂弘

家庭は平和だし、御夫妻揃ってご健康であるし、二人で飲むお茶は何とも美味しいお茶である事よ、と平和国家日本の象徴のような俳句が出来ました。

【選句についてお願い】

- 一、お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いできればなお結構です。

投句、選句者氏名

() 内は選句者略号(五十音順)

網 佑子(佑)、井狩 修(修)、岩崎悦子(崎) 岩壺克哉(克)、加龍恵子(恵) 楠野圭子(圭)、小松康子(康)、斎藤優子(優)、佐藤多恵子(多)、佐藤茂弘(茂)、戸堂博之(博)、富岡訓子(訓)、中野亘子(亘)、中野陽典(陽)、西村敏治(敏)、野本展子(展)、本多通博(通)、前田秀一(秀)、三木徳彦(徳)、都 福仁(福)、宮本智乃(智)、元永悦子(永)、山家由紀(由)、吉澤志保子(志) 吉田以登(以)